

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101181		
法人名	医療法人 中沢会		
事業所名	グループホーム N・Sホーム		
所在地	群馬県前橋市下大島町596番の1		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成24年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人内に3ユニットのグループホームがあるが、それぞれ個性あるホームとなっている。入居者が主体となり、現時での積み重ねた経験を活かし職員に対して様々な知恵、アドバイス、指導をしながら変わらぬ環境、地域の中でそれぞれが役割を持って、日々充実した生活が送れるようケアプランを作成し、職員が統一した援助を行っている。特に重視していることは個々の意志決定を尊重し、食べる事の楽しみを持って頂くため、季節に応じた食材を利用したり、利用者様から教えて頂いた職員と共に手造り味噌、切り干し大根、沢庵漬、長年続いている糠漬、本人希望の飲酒など……。超高齢化社会に向け地域の拠点となれるよう、又利用者様が一日でも長く変わらぬ楽しい日々が送られるようなホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、3ユニット毎に理念を掲げ、利用者が主体的に暮らせる支援をモットーとし、職員は理念を基に、利用者がその人らしく持ち得る力を発揮し生き生きと暮らせるように支援をしている。天気の良い日は散歩道で地域の方と挨拶を交わしたり、法人内の売店に立ち寄り買い物を楽しんだりしている。また、昔培った味噌・こんにゃく・切干大根・干し柿作りや漬物を利用者から教えてもらい、利用者の知恵を生かす機会づくりをしている。法人が主催の納涼祭には地域の方が参加し、利用者・職員が作る手作り味噌やケーキを販売し、その際には利用者が品物を渡したり代金を預かるなど、役割を担当して皆で祭りを楽しんでいる。病院が母体であり、心身の変化の際には速やかに医療が受けられ、終末期や看取りのケアについても併設病院の24時間の医療連携がなされ、家族の宿泊室もあり、大切な時間を過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念をいつも念頭に置き、毎朝の引き継ぎ等の機会に唱和し、日々のケアの基本としている。	開設からの理念を見直し、3ユニット毎に理念を創り、職員は確認の為に毎朝唱和して、日々介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に声掛けをし、気軽に来ていただける様にしている。又回覧板や近隣にチラシ配りをして、事業所の納涼祭等の各種行事に地域住民参加を呼びかけている。そして地域でひらかれる祭りや敬老会等の行事に招待されている。(下大島町敬老会 H24.10.15参加)	利用者は、散歩時に地域の方と挨拶を交わし、職員は、地域の清掃に参加して、日常的な交流に努めている。法人主催のけやき苑の納涼祭には、回覧板を回して地域の方を招待している。また、地域の方が庭の掃除や季節毎の花植えに見えたり、近隣の幼稚園児のお遊戯の慰問もあり、地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方等との意見交換を実施し、地域の高齢者様の現状を理解するとともに、発信できる事は実施している。(介護教室5月26日、認知症について グループホームってどんなところ?を開催)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市職員、家族等が参加して2ヵ月毎に3ユニット合同で開催している。事業所の現状報告をはじめ、地域の状況、市への質問家族からの要望等意見を出し、話し合い、サービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月毎に、運営推進会議は3ユニット合同で開催している。ヒヤリハット・事故報告・行事計画・評価結果報告・市担当者による介護保険の法改正の説明等が行われ、サービス向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点等を問い合わせているが、特に管理者が機会あるごとに市窓口を訪ね、介護保険内容や現場の取り組み等の話し合いを重ねている。	市主催の講習会に参加し、介護保険についての疑問点を聞き、事故報告や取り組み状況の報告に直接出向き、協力関係を築くように取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア向上委員会に各ユニット2人づつの委員を選出し、勉強会等を開催して、身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。玄関の鍵はかけずセンサーで確認している。	法人のケア向上委員会の研修会や各ユニット会議で、身体拘束について勉強会を行っている。玄関は鍵を掛けず、センサーを使用し、外出する利用者を制止せずに見守り、一緒に外出している。管理者・全職員は玄関の施錠を含めての身体拘束をしないケアを理解し実践をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア向上委員会主催の勉強会を2ヶ月に1度行っている。又言葉掛けにも注意し、職員間で徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	医療法人中沢会の勉強会において、学ぶ機会を持ち活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時に御家族の方に十分な説明を行い、細かい所も理解して頂ける様に話しをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ユニットそれぞれに苦情担当者をきめて玄関に苦情箱を設置し、意見を反映している。その他に利用料の支払日等の面会時を利用して、家族等との対話を大切にしている。来所できない家族等には電話で利用者様の状況を報告している。	苦情相談受付窓口を説明し玄関に掲示して、意見箱と用紙を共に設置している。毎月の利用料の持参時や「ケーキを焼いたので」と家族の面会を促して、家族との対話を大切にしている。希望や意見は職員会議で検討している。面会に来られない家族には、電話で健康や生活の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、介護会議、ケース会議等、課題ごとの会議で、職員の意見交換をおこなっている。代表者や管理者は会議に出席し状況把握を行っている。	職員会議、忘年会・暑気払い等で職員の意見を聞く機会を設けている。提案された浴室の椅子・職員利用の自転車購入の意見を活用している。職員に県主催や外部研修の参加を奨励し、向上心を持って働けるよう応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットの状況を把握し、職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修がある際積極的に、参加できるように日程を調節したり、併設の病院や、けやき苑の勉強会が月に1度ずつ行われているので、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学、研修の機会を設け行っている。見学、研修後は文章に残し他職員も刺激を受け、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行いご本人の状態を確認させて頂き、安心して入居できる様にお話を伺う等しています。グループホームでどのような生活を望んでいるのか、要望等聞かせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時にホームでの様子をなるべく詳しく話している。又ご家族からの要望等伺い職員間で、話し合いよりよい関係作りができるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用される方の状況等に応じた、施設等のサービスを相談、検討するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の生活の知恵を教えて頂いたり、料理を作る上でのコツ等沢山のことを学ばせて頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築く、環境作りを実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行時や小旅行、家族会等に参加して頂き、悩みをお聞きしたり、利用者様が喜び笑顔で一杯になる姿を、共に大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会に参加したり、年末、年始、お盆の外泊をすすめたり、思い出の土地へドライブに行ったり、家族や友人の訪問を奨励して、馴染みの関係継続の支援を行っている。	兄弟や親戚・知人・友人が面会に訪れている。年末年始・お盆には、家族と共に外出・外泊に出かけている。また、昔の馴染みの公園や場所に、職員が運転するバスでドライブするなど、馴染みの場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せずにレクリエーションや会話に参加して頂き、利用者様同士が、関わられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、いつでも気軽に訪ねて頂けるように御家族との関係を、大切にしながら必要に応じて相談や支援に努めるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に、生活歴や趣味を把握すると共に、本人や家族等から「何がしたいか？どうありたいか」などの思いや意向を聞き、それに沿って支援している。	一人ひとりの生活歴・趣味を把握し、直接意見や希望を聞くようにしている。併設施設の売店で買い物したり、楽しみなレクリエーションを選んだり、意向を聞きながら支援している。困難な方には寄り添い、家族からの情報を得て問いかけ、無理強いせずにゆっくりと対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具や思い出の品物等持って来て頂いている。又一人一人の生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけ本人の意思や希望にそよう努めている。又それぞれの能力が発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できる限り御家族にカンファレンスに参加して頂き、意見が反映できるように努力し作成しています。又職員間でも常に一人一人の現状を把握し意見交換している。利用者の変化に応じて適宜見直しているが、原則4か月に1回見直している。	介護の職員担当制を取り、本人・家族からの希望を聞き、日頃の気づきや記録の中から、職員は話し合いをしている。その情報と医師・看護師の意見を資料として家族を交えて、4ヶ月毎のカンファレンス・モニタリングにより介護計画を見直している。家族には了承を得ている。	利用者がより良く暮らせるために、日々の生活の様子・ケアの実践結果を毎月の新鮮な目によるモニタリングを行い、確認された介護計画を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態や気づいた事を個別記録し、職員間で情報を共有し日々のケアに反映させケアプランの見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の状況、日々の生活の中でその都度発生するニーズに対し、職員間で常に情報交換し話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、民生委員の方に出席して頂いたり、専門学校の学生の研修やボランティア、地域のボランティアの方と協力しながら本人がもてる力を発揮しながら安心して暮らしを楽しむ事ができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望医療機関を確認している。全利用者が協力医療機関としている。2週間から3週間に1度往診があり、3ユニット専属の看護師が状態や薬を管理している。必要に応じ随時受診できる様支援している。	入居の際に希望を聞き、法人の医療機関を説明して、殆どの利用者は法人の医療機関をかかりつけ医としている。2～3週間に1回往診があり、往診時の状況を家族に報告をしている。他科・歯科の受診は、基本的には家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の健康管理や受診後の対応等、適切な医療を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に至るまでの状態、日々の様子等を病院に伝えている。又入院中の様子や病気の経過等伝えてもらえる様関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について、看取りに関する指針を定めて入居時に説明を行い同意を得ている。又地域の関係者と方針を共にし支援するよう取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期のケアについて説明・同意を得ている。状態の変化時は、家族・医師・事業所側で繰り返し話し合い方針を共有している。事業所での終末期のケアは、法人の医師・看護師との連携を密に行い支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上毛病院やけやき苑にて応急手当・初期対応の勉強会に参加し、訓練も行い身につける様、定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間の避難訓練を年2回行っています。又地域の消防署の指導を受けて協力体制を築いています。(24. 11. 14 夜間想定での避難訓練実施)	年2回の火災訓練は法人全体で行い、消防署の指導の下に1回は夜間を想定し、避難経路・場所を確認している。避難訓練の参加を地域の方に呼びかけているが、協力の意向はあるが訓練参加はない。法人は全施設分の備蓄をしており、災害時は事業所・病院の施設を避難所として地域の方を受け入れると伝えており、災害時の相互協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき一人一人の誇りやプライバシーを損ねないよう、思いやりのある態度で接する事を職員一同心掛けている。また面会簿も箱と容姿を用意し対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、特に言葉づかいには注意している。また、排泄時はさり気なく声をかけ、失敗時には誇りを傷つけないように思いやりをもって対応をしている。職員の新人教育が重要と考えて指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の過ごし方やレクリエーションの希望や食事の希望を伺いご自分で決められたりと、納得しながら暮らして頂ける様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、一人で過ごしたい方、歌を聴きたい方、テレビを観たい方、貼り絵をしたい方、散歩を希望される方、それぞれに対応できるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの髪型や、外出の際には服を選ぶ手伝いやお化粧の手伝いをさせて頂く等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな物を伺い季節の食材を取り入れたメニュー作りをしている。	利用者の希望を入れて職員が献立を考え、法人の栄養士にカロリー計算を依頼している。時々利用者と食材購入に出かけ、庭先の野菜を使って調理している。利用者は、野菜の下拵えや下膳を行っている。おやつはホットケーキ・お好み焼きを作り、利用者と職員は同じテーブルを囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分量を摂取毎に記録し、栄養・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力に応じて歯磨きの声掛け、見守りを行っている。又夜間義歯を預かり衛生管理の為消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握しながら声かけや見守りを行い、紙パンツから布パンツに替えられるよう支援を行っている。	排泄状況により一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導や見守りをしている。紙パンツを使わなくなった方もおり、紙パンツを減らすよう取り組んでいる。呼び鈴や夜間は自室にポータブルトイレを用意して、トイレでの排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取して頂き、お茶の嫌いな方には好みの物(冷たい水など)を提供している。又野菜中心の料理を提供し、日中ラジオ体操・散歩等に参加して頂き運動をして便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回午後に行っている。入浴日を変えたり入浴の長さや声掛けのタイミング等本人の希望を優先し、楽しく入浴して頂ける様に支援している。	入浴は、週に3回午後行っている。入浴を拒否する方には、時間をずらしたり、声かけの工夫をしたりしている。また、公平に入れるように順番制にしている。入浴を楽しめるように季節の柚子湯やカラフルな入浴剤を用い、ゆっくりとした入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切に休息して頂いたり、夜間不眠があり起きている方には、会話対応を行い安心して眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬を把握し、変更時には伝達ノートに記入し職員間で理解するようにしている。又医師や看護師より説明を受け症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができる事の喜びを味わって頂ける様朝のモップ掛けや洗濯物たたみ、お盆洗い等役わり分担を行い楽しみながらして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に事業所周辺の敷地内や、近隣の住宅付近を散歩している。また、隣接施設のマイクロを利用して、買い物や外食をしている。季節に応じてお花見に出掛けている。	天気の良い日は近隣や大島公園まで散歩をしたり、事業所前の櫛の木陰のテーブルでお茶を飲んだり、皆で歌を歌い楽しみながら外気浴をしたりしている。また、食材購入に職員と一緒に出かけたり、マイクロバスでの季節毎の花見や外食に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理ができ、所持を希望される方には外出時、買い物等して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の都合の良い時間を伺いご本人が、かけたいと言われた時に電話している。また季節毎のハガキでの挨拶等ご本人がやりとりできる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見やすい大きさのカレンダー、時計やホールには優しい色合いの写真を飾り、季節感を感じられる飾り付けや植木鉢を置き、心地よく過ごして頂ける様に工夫している。	食堂兼ホールには加湿器が設置され、温度・湿度が調整されている。観葉植物や、皆で寛げるようソファが設置され、壁には季節の貼り絵・行事の写真が貼られている。広い廊下で歩行訓練ができ、居室からベランダに出ると、庭先の花や野菜畑が眺められる。季節を感じ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには6人掛けの椅子を置き、壁側には一人用の椅子を置き、一人で外を眺めながらのんびりと過ごして頂いたり、皆様とお話を楽しんで頂ける様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は長年使い慣れたタンス・長椅子・仏壇等が持ち込まれ、家族の写真や好みの絵、ご自分の作品等飾られ居心地よく過ごせるようにしている。	居室には、使い慣れた馴染みの家具・仏壇・ラジオ等が持ち込まれ、本人の俳句や作品・家族の写真・手紙等が飾られて、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや滑り止めを設置したり、トイレや居室にわかりやすく大きい文字を貼り、廊下の壁の色と戸の色を分け安全で自立した生活が送れる様工夫している。		